Kwansei Gakuin University

本年、経済学部は創設70周年を迎えました。それとともに、関西学院が神戸の原田の森に創立された年から数えて115周年、神戸原田の森から西宮上ヶ原に移設して75周年を迎え、さらに、創立者ランバスの生誕150周年であるという、いろいろな意味で区切りの年であります。ただ、このような年(2004年)の7月23日に名誉教授の小寺武四郎先生を失ったことは大きな悲しみでありました。小寺先生は、名誉教授になられても、さらに80歳代になられても、この『経済学論究』に幾度となく投稿され、先生の研究に対するその姿勢は現役の教員に「研究をしっかりやりなさい」と激励しているように思いました。先生の最後の論文は90歳近くで書かれた「バブル後不況はなぜ長引くのか－再論」(第52巻4号、1999年3月発行)であります。

本年は、また、フランスのリール第一大学経済社会学部との学術交流が始まって10周年という節目の年であります。これを記念しまして、関西学院大学経済学部とリール第一大学経済社会学部の共催により、2005年3月10日、11日に「日欧経済シンポジウム:産業イノベーションを通じた地域統合への貢献」を開催いたします。経済界や企業の方々に、世界における地域戦略や今後の展望について報告していただき、フランス、ドイツ、イタリア、ポーランド等から研究者を招き、アジアならびにヨーロッパの地域統合をテーマとした報告・討論を行います。

本誌『経済学論究』は、学院と学部の創立を5年ごとに記念して発行しており、21世紀最初の特別号であります。経済学専攻の専任教員(学部ならびに大学院)は、経済学の理論、金融とファイナンス、政府・自治体の政策、ビジネスと産業、労働や社会保障、経済情報、経済の歴史と思想、国際経済というようなさまざまな分野について講義し、研究を行っていますが、今回、これまでの特別号と同様に、海外留学や特別研究期間中という事情のある教員以外のすべてのものが執筆しました(なお海外留学中の教員のうち1名は執筆しております)。

『経済学論究』は本経済学部、本経済学研究科の研究水準を示すものでありますが、ご関心のある方に広く読んでいただけなければその存在は危ういものとなります。さらに多くの方に読んでいただくために、あるテーマにしぼった特集号を組んだり、また、本誌が学部学生に多く配布されていることを考えますと、学部学生向けのコーナーを作る

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

ことも今後考えてみたいと思います。皆様のご意見、ご鞭撻を今後ともよろしくお願いいたします。

次の5年目の節目を目指して、経済学部に所属するものすべてのものがさらなる精進を期したいと思います。

2004年12月16日（関西学院クリスマス礼拝の日）

経済学部長

根　岸　　紳

NII-Electronic Library Service